

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社 フォースコーポレーション
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1
自己評価作成日	平成22年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の環境も良く、保育所との交流、お宮があったり、適度な散歩出来る環境が整っている。併設にあるデイサービスを利用しながら、毎日交流を行ない楽しんでいる。開設して6年目を迎えるが職員が、仲良く働いており、関係作りが出来ている。職員間で意見を話し合い、改善している。職員は入居者の健康管理には十分配慮し主治医との連携、看護師との連携を密に図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者や管理者は地域との関係作りを積極的に行っており、地域の行事への参加を積極的に行っている。また、ホームの行事(夏祭り、芋炊き会、認知症講演会等)や地域のグループホーム合同の運動会の開催等にも意欲的である。併設のデイサービスの職員との協力関係もできており、意見を出し合って作り上げる体制が整っている。全員でサービスの質の向上に取り組む姿勢を感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ゆうなぎ
(ユニット名)	南棟
記入者(管理者)	
氏名	緒方 久美子
評価完了日	H22 年 8 月 4 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ゆうなぎの理念・行動目標を作っており、毎日朝礼で復唱を行っている。理念についての見直しを行うように、職員間で話し合うようにしている。各所に掲示している。	
			(外部評価) 利用者や職員が笑顔で穏やかに生活できることが大切であるという理念の下、利用者に向き合って支援している。行動目標は利用者の状態や状況によって見直し、気になることは朝礼で話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入っており地域行事(運動会・掃除・お神楽・回覧板)などに参加している。保育所との交流(誕生会・運動会・お祭り)、地域のいきいきサロンとの交流を行っている。ゆうなぎ祭りには青年団、家族、地域の方、推進員の方々に参加してもらい交流を行っている。	
			(外部評価) 地域のいきいきサロンの利用者等がホームの草刈をしてくれたり、夏祭りや芋炊き会、運動会等に参加し、利用者と親しく交流している。管理者は地域の行事等に参加し、ホームとの関わりが円滑に行えるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 他のグループホームと協力し、認知症の講演会を行っている。多数の方の参加がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の推進会を行い、外部評価後は結果を報告し、会議で出された意見は職員で話し合い、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 地域の方が参加しやすいよう利用者と一緒に食事してもらったり、ホームの行事と合わせて行う等工夫をしている。外部評価の結果を報告し、目標達成計画についても話し合いを行い、達成できるよう協力を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議やGH連絡会議に参加してもらい事業所の実情を伝えている。ゆうなぎ祭り、イベント行事などには参加してもらっている。利用者の更新時には、ケアプラン、カンファレンス、日課票などを提出して利用者情報を報告している。	
			(外部評価) 町の連絡会に出席し情報交換をしている。介護計画書等の提出の義務があり、普段から親密な関わりがある。ホームの利用者の事もよく理解してもらっており、良好な関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行わないというマニュアルを作成し、研修会、勉強会を行っている。鍵をかけずに自由に暮らしてもらう為に、職員は必ず見守りをするよう徹底している。	
			(外部評価) 身体拘束はしないという方針を掲げ、玄関の施錠はしていない。職員全員で利用者の様子を目配り気配りすることで対応している。利用者の思いに配慮したケアが取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会、勉強会に参加し防止に努めている。入居者に対しての言葉使いなど、不適切だと思われるときは、話し合いを持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会で学び、職員会議で勉強会を行い、理解を深めている。必要とする利用者には管理者が対応し職員にも説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、管理者が十分な説明を行い、家族に同意を得ている。介護法報酬改定の際には、家族に説明を行い、不安の無いように対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の要望は、その都度話し合い解決するようにしている。(面会時) 各棟、玄関先に意見箱を設置し、投稿してもらうようにしている。家族会を行ったり、面会時に職員が話を聞き、意見や要望を聞いている。 (外部評価) 家族も高齢になり度々の訪問は難しいが、家族の意見等聴く機会を積極的に作り、できるだけ多くの家族との関わりが持てるよう、行事に合わせて呼びかけを行っている。欠席の家族には議事録等を送付し協力が得られるよう取り組んでいる。	家族との交流は、利用者にとって大切な心の支えであり、事業所にとっても利用者を支援するために必要不可欠なことである。今以上に積極的に情報交換を行う機会を増やし、より良い関係を築きサービスの質の向上に反映できるよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者はなるべく現場に入り、職員の声を聞くようにしている。各棟の責任者が職員の声を伝えている。代表者、管理者を交え、職員との食事会をする機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 開設からの職員が多く、代表者や管理者、職員と一緒に食事に行く等、意見が言いやすい雰囲気作りが行われている。管理者や各ユニットの責任者は職員の意見等聞くよう心掛け、出された意見を業務の改善やサービスの質の向上に反映するよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 希望休を取り入れたり、有給休暇も取れるようにしている。休憩時間や場所を確保している。給与については時間外手当を出している。代表者は、食事会等の費用を援助している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 力量に応じて研修を受講できるように配慮している。受講料と資格取得に関する費用も負担している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者は毎月GH連絡会に参加し意見交換や勉強会を行っている。職員も勉強会や情報交換、交流会（運動会・レクバレー、認知症講演会）を行っている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前には自宅(病院等)に面談に行き、本人の情報を細かく聞き取るようにしている。情報を職員に報告し、不安なく生活できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には自宅(病院等)に面談に行き、家族の思いを聞きとっている。センター方式のフェイスシートを渡し書いてもらうようにしている。(出来る範囲で)職員に情報を伝え、共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の意見が違うこともあるが、ゆうなぎでの生活に馴染んでもらえるように支援している。(併設のデイサービスを利用する)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ゆうなぎの行動目標に沿ってお互いが協働しながら穏やかな生活が出来るよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にお部屋で話してもらったり、本人の生活情報を伝えたり、介護記録を読んでもらっている。月1回のお便りを発行している。年4回のゆうなぎ通信を発行している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚の方や知人が面会に来られ、自由にお話をされている。馴染みの美容室に行かれたり、家族と自宅に帰られたり、お墓参りに行かれたりされている。  (外部評価) 事業所の近くには保育園や神社があるため人の行き来が多い。施設内のデイサービス利用者と昔馴染みであったり、行事等で地域の馴染みの人が来てくれる等、以前からの関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 馴染みの関係が出来ており、食堂、居室、廊下ベンチ等で楽しくお話しされ、自由に行き来されている。個人の性格を考慮し、無理強いしないよう努めている。 (風船バレー、カラオケ、体操) 皆で出来ることをして関わられるように対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談があれば家族と連絡している。退所後も年賀状、暑中見舞い等送っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で、一人一人に声を掛け、表情の態度から本人の思いを知ろうと努めている。意思疎通の困難な方に対しては、職員の本意にならないよう努めている。	
			(外部評価) 入居時から関わっている職員が多いため、利用者となんでも話せる関係が築かれている。利用者本位に思いや意向が把握できるよう、表情や様子を目で見て心で感じて把握に努めている。全職員が利用者全員を理解できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みのものを持ってきてもらったり、入所前には自宅(病院等)に行き、情報収集している。入所後も本人・家族から話を聞き、情報を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の一人一人の生活リズムを理解すると共に、出来ること・出来ないことを把握している。気づきノート、申し送りノートに記録し、職員全員で把握できるようにしている。バイタルチェックを行い、心身状態の変化に対応できるようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 毎日ケアプランに沿った介護記録を取り、定期的にカンファレンス、アセスメントを行い、職員全員で話し合い、見直しを行っている。面会時には、家族に話しや意見を聞き、プランに取り入れている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族に現在の計画の実施状況や達成状況を説明し、意見や要望を取り入れている。担当者が評価しケアマネが確認し皆で意見を出し合い作成している。計画の実施状況は申し送りノートに記録し、経過観察しながら良い意見は随時、取り入れている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別にファイルを用意し、食事・水分・排泄・体重・バイタル等身体状況、毎日の暮らしの生活の様子やエピソード、気づきノートを記録し、全職員が確認するようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の状況に応じて通院・送迎など必要な支援を行っている。本人が希望される方には、ホームに来ていただき、30分ほど、療養マッサージを利用している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 推進員である区長や民生委員、保育所職員と意見交換をしたり、地域住民と交流（サロン）することにより、入居者と顔なじみになることで、自由で安全、安心な暮らしが出来るような体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居者及び家族の希望するかかりつけの医療機関に受診している。病状に合わせた適切な医療機関にも受診している。緊急時は往診を受けたり、主治医との連携を図っている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関は24時間体制で連携を図っている。利用者の希望の医療機関への受診は家族にお願いするが、管理者が対応することもある。職員は利用者一人ひとりの健康状態に常に気を配っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関の看護師に、毎週1回健康観察を行ってもらい、入居者の身体状況を報告し、適切な医療に継げている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した場合、情報提供したり、職員のお見舞い時は病院関係者と話し、状態を把握している。退院時は、病院より情報提供してもらい、連携を密に図っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に施設の方針を説明し、同意を得ている。看取り対応マニュアルを作成し、今年3月に看取りを行ったが、家族・意思・全職員で話し合いを行い、連携を図り看取りを行った。これらの経験を生かし今後活かしていきたいと思う。</p> <p>(外部評価) ホームでの終末期ケアの取り組みは利用者や家族の大きな関心となっている。今後も要望があれば事業所として対応できるよう、協力医療機関等と協力し職員の医療的な知識や介護力の向上に努めていきたいと検討している。</p>	<p>利用者が安心して希望する生活を送るためには、職員全員が同じ思いで終末期ケアに取り組む必要がある。終末期ケアに関する研修会等を関係機関にも協力してもらおう等して、さらなる職員のスキルアップを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に全職員が救命救急法を受講している。緊急時対応マニュアルを作成、掲示し、周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災や地震等の災害に備えて、テント、食料、飲料水、トイレ（ポータブル）を常備している。定期的に地域の方との訓練も行っている。平成22年2月にスプリンクラーを設置した。  (外部評価) 年2回の避難訓練を毎年実施している。運営推進会議の中で状況等の報告をして、地域の協力が得られるようお願いしている。職員は設備の点検や避難経路の整備、夜間の外回りの巡視等を行い予防に努めており、防災に関する意識は高い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の気持ちを考えて、さりげない声かけをしている。職員会議、カンファレンスで言葉かけの対応について話し合いを行っている。  (外部評価) 毎年プライバシーの保護については研修を受け、職員の意識の向上に努めている。利用者本位を行動目標にも掲げ、気になる事があればホーム長や管理者が直接注意することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、利用者に合わせて声かけしたり、意思表示ができない方に対しては表情を読み取ったり、自己決定出来やすい働きかけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは決まっているが、起床から就寝までの時間、一人一人のペースを大切に個別に対応している。生活のメリハリを付ける為には散歩、レクなどは無理強いせず声かけすることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望により、美容室に行かれパーマをかけられている。自己決定出来ない方には(外出時等の服装など)職員と一緒に考えて、本人の気持ちに添った支援を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で作った野菜と一緒に収穫し、メニューの中に取り入れ楽しく食事をしている。誕生会には本人の希望を聞き、好きなものを食べてもらったり、月1回の外食も好きなものを食べてもらっている。出来る人には食事の準備・片づけと一緒にしてもらっている。 (外部評価) ホームと併設のデイサービスの職員で協力して調理を行っており、利用者の健康状態に合わせて普通食と減塩食の2種類の調理を分担して行っている。利用者の要望をメニューに反映する等、毎日の食事が楽しくなるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の健康状態に合わせた食事の提供を行っている。(とろみ、刻み食、ミキサー食、減塩食、減糖食)水分量や食事摂取量を個別に記録している。お茶を嫌がる人にはジュース等好きなものを飲んでもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、個別に応じて支援している。(歯間ブラシ、スポンジ)夜は義歯を外してもらっている。週1回ポリデントで消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し(排泄チェック表)、声かけ誘導を行っている。日中はトイレでの排泄を促し、夜間帯は、必要に応じてポータブルトイレ、オムツ、尿器を使用している。	
			(外部評価) 介助が必要な利用者については、排泄状況をチェックし排泄の自立支援に取り組んでいる。ポータブルトイレで排泄できるようになった利用者もあり、効果が表れている。また、トイレ誘導等の声かけについては利用者に無理強いしないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく自然排泄が出来るように、体操、散歩を行ったり、乳製品、水分、食物繊維を多く取ってもらうようにしている。便秘が続く方には主治医に相談し、薬を処方してもらったり、センナ茶を飲んでもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の希望や健康状態に合わせて入浴してもらっている。介助も入浴時間もその人に合わせて個別支援している。	
			(外部評価) 昼間の時間帯で、利用者の希望で入浴している。体調不良等で入浴できない場合は、朝の更衣時に着替えの支援を行い清潔に過ごせるようにしている。介助にて浴槽につかって入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状況を各個人ごとに把握し、散歩、レクに参加してもらったり、日中の活動を促す工夫をしている。日中も利用者の意向や健康状態に合わせて休んでもらうこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋があり、用途や副作用を理解している。いつでも全職員が見れるようにしている。症状変化があった場合、主治医と連携を図って相談している。薬変更後は申し送りノートに記入し、共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に応じた(得意)手伝い、趣味(野菜作り、料理、洗濯干し・たたみ、掃除、縫物、編み物、買い物)を活かし、日々を楽しく過ごしてもらえるよう支援している。カラオケ、歌を唄う、ドライブ、風船パレードは日々の中で楽しまれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望に添って買い物に出かける機会を支援している。家族の協力を得て外出されている方もおられる。	
			(外部評価) 利用者と一緒に食材を買いに出かけたり、それとは別に利用者からの希望があれば、曜日を決めて買い物にも行っている。利用者の希望を聞いて外出計画を立てており、ミキサー食の利用者であっても出かけられるよう支援している。外泊も家族への働きかけを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金の管理が出来る方は、自分で所持され、買い物に行かされている。ほとんどの方は家族と相談し、ホームで管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話が出来る方は電話をしたり、職員が準備したハガキ(暑中見舞い、年賀状)は、一言書かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関先に花を植えたり、共有部分には花を生けたり、食堂内の壁面には季節に応じた飾りを作っている。廊下には写真、作品を掲示している。出来る方は自室に花を飾ったり、観葉植物のお世話をされている。場所が分かるように(トイレ、エレベーター、居室)の表示をしている。</p> <p>(外部評価) 廃校になった中学校の職員宿舎をリフォームした事業所である。リビングは適度な広さが確保され、隣接する保育園から園児の元気の良い声が聞こえてくる。トイレも介助に必要な広さがとられており、気になる臭いもない。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関や廊下に椅子、ベンチ、ソファを置き、気の合った利用者が話しできるように工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には馴染みの家具、TV、コタツ、タンスを持ち込まれている方もおられる。居心地良く過ごしてもらえるように、本人、家族の写真や作品を飾って工夫している。</p> <p>(外部評価) 各部屋にベランダがあり居室も広く、利用者の希望があれば自宅からの私物も十分置くことができる。開設からの利用者も多く、居室が安心して過ごせる空間になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車いす、歩行器を使用してもらっている。身体状況に合わせて、ベッドやポータブルトイレの位置を検討している。転落防止のため、床で寝てもらう方もある。階段、廊下、トイレ、浴室に手すりを設置したり、段差を無くし安全で出来るだけ自立に向けた生活が送れるよう努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社 フォースコーポレーション
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1
自己評価作成日	平成22年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の環境も良く、保育所との交流、お宮があったり、適度な散歩出来る環境が整っている。併設にあるデイサービスを利用しながら、毎日交流を行ない楽しんでいる。開設して6年目を迎えるが職員が、仲良く働いており、関係作りが出来ている。職員間で意見を話し合い、改善している。職員は入居者の健康管理には十分配慮し主治医との連携、看護師との連携を密に図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者や管理者は地域との関係作りを積極的に行っており、地域の行事への参加を積極的に行っている。また、ホームの行事(夏祭り、芋炊き会、認知症講演会等)や地域のグループホーム合同の運動会の開催等にも意欲的である。併設のデイサービスの職員との協力関係もできており、意見を出し合って作り上げる体制が整っている。全員でサービスの質の向上に取り組む姿勢を感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 北棟

記入者(管理者)  
氏名 緒方 久美子

評価完了日 H22年8月4日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ゆうなぎの理念・行動目標を作っており、毎日朝礼で復唱を行っている。理念についての見直しを行うように、職員間で話し合うようにしている。各所に掲示している。	
			(外部評価) 利用者や職員が笑顔で穏やかに生活できることが大切であるという理念の下、利用者に向き合って支援している。行動目標は利用者の状態や状況によって見直し、気になることは朝礼で話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入っており地域行事(運動会・掃除・お神楽・回覧板)などに参加している。保育所との交流(誕生会・運動会・お祭り)、地域のいきいきサロンとの交流を行っている。ゆうなぎ祭りには青年団、家族、地域の方、推進員の方々に参加してもらい交流を行っている。	
			(外部評価) 地域のいきいきサロンの利用者等がホームの草刈をしてくれたり、夏祭りや芋炊き会、運動会等に参加し、利用者と親しく交流している。管理者は地域の行事等に参加し、ホームとの関わりが円滑に行えるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 他のグループホームと協力し、認知症の講演会を行っている。多数の方の参加がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の推進会を行い、外部評価後は結果を報告し、会議で出された意見は職員で話し合い、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 地域の方が参加しやすいよう利用者と一緒に食事してもらったり、ホームの行事と合わせて行う等工夫をしている。外部評価の結果を報告し、目標達成計画についても話し合いを行い、達成できるよう協力を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議やGH連絡会議に参加してもらい事業所の実情を伝えている。ゆうなぎ祭り、イベント行事などには参加してもらっている。利用者の更新時には、ケアプラン、カンファレンス、日課票などを提出して利用者情報を報告している。	
			(外部評価) 町の連絡会に出席し情報交換をしている。介護計画書等の提出の義務があり、普段から親密な関わりがある。ホームの利用者の事もよく理解してもらっており、良好な関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行わないというマニュアルを作成し、研修会、勉強会を行っている。鍵をかけずに自由に暮らしてもらう為に、職員は必ず見守りをするよう徹底している。	
			(外部評価) 身体拘束はしないという方針を掲げ、玄関の施錠はしていない。職員全員で利用者の様子を目配り気配りすることで対応している。利用者の思いに配慮したケアが取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会、勉強会に参加し防止に努めている。入居者に対しての言葉使いなど、不適切だと思われるときは、話し合いを持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会で学び、職員会議で勉強会を行い、理解を深めている。必要とする利用者には管理者が対応し職員にも説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、管理者が十分な説明を行い、家族に同意を得ている。介護法報酬改定の際には、家族に説明を行い、不安の無いように対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の要望は、その都度話し合い解決するようにしている。(面会時) 各棟、玄関先に意見箱を設置し、投稿してもらうようにしている。家族会を行ったり、面会時に職員が話を聞き、意見や要望を聞いている。 (外部評価) 家族も高齢になり度々の訪問は難しいが、家族の意見等聴く機会を積極的に作り、できるだけ多くの家族との関わりが持てるよう、行事に合わせて呼びかけを行っている。欠席の家族には議事録等を送付し協力が得られるよう取り組んでいる。	家族との交流は、利用者にとって大切な心の支えであり、事業所にとっても利用者を支援するために必要不可欠なことである。今以上に積極的に情報交換を行う機会を増やし、より良い関係を築きサービスの質の向上に反映できるよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者はなるべく現場に入り、職員の声を聞くようにしている。各棟の責任者が職員の声を伝えている。代表者、管理者を交え、職員との食事会をする機会を設けている。  (外部評価) 開設からの職員が多く、代表者や管理者、職員と一緒に食事に行く等、意見が言いやすい雰囲気作りが行われている。管理者や各ユニットの責任者は職員の意見等聞くよう心掛け、出された意見を業務の改善やサービスの質の向上に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 希望休を取り入れたり、有給休暇も取れるようにしている。休憩時間や場所を確保している。給与については時間外手当を出している。代表者は、食事会等の費用を援助している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 力量に応じて研修を受講できるように配慮している。受講料と資格取得に関する費用も負担している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は毎月GH連絡会に参加し意見交換や勉強会を行っている。職員も勉強会や情報交換、交流会（運動会・レクバレー、認知症講演会）を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には自宅(病院等)に面談に行き、本人の情報を細かく聞き取るようにしている。情報を職員に報告し、不安なく生活できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には自宅(病院等)に面談に行き、家族の思いを聞きとっている。センター方式のフェイスシートを渡し書いてもらうようにしている。(出来る範囲で)職員に情報を伝え、共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の意見が違うこともあるが、ゆうなぎでの生活に馴染んでもらえるように支援している。(併設のデイサービスを利用する)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ゆうなぎの行動目標に沿ってお互いが協働しながら穏やかな生活が出来るよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にお部屋で話してもらったり、本人の生活情報を伝えたり、介護記録を読んでもらっている。月1回のお便りを発行している。年4回のゆうなぎ通信を発行している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚の方や知人が面会に来られ、自由にお話をされている。馴染みの美容室に行かれたり、家族と自宅に帰られたり、お墓参りに行かれたりされている。  (外部評価) 事業所の近くには保育園や神社があるため人の行き来が多い。施設内のデイサービス利用者と昔馴染みであったり、行事等で地域の馴染みの人が来てくれる等、以前からの関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 馴染みの関係が出来ており、食堂、居室、廊下ベンチ等で楽しくお話しされ、自由に行き来されている。個人の性格を考慮し、無理強いしないよう努めている。(風船バレー、カラオケ、体操) 皆で出来ることをして関わられるように対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談があれば家族と連絡している。退所後も年賀状、暑中見舞い等送っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で、一人一人に声を掛け、表情の態度から本人の思いを知ろうと努めている。意思疎通の困難な方に対しては、職員の本意にならないよう努めている。	
			(外部評価) 入居時から関わっている職員が多いため、利用者となんでも話せる関係が築かれている。利用者本位に思いや意向が把握できるよう、表情や様子を目で見て心で感じて把握に努めている。全職員が利用者全員を理解できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みのものを持ってきてもらったり、入所前には自宅(病院等)に行き、情報収集している。入所後も本人・家族から話を聞き、情報を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の一人一人の生活リズムを理解すると共に、出来ること・出来ないことを把握している。気づきノート、申し送りノートに記録し、職員全員で把握できるようにしている。バイタルチェックを行い、心身状態の変化に対応できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日ケアプランに沿った介護記録を取り、定期的にカンファレンス、アセスメントを行い、職員全員で話し合い、見直しを行っている。面会時には、家族に話しや意見を聞き、プランに取り入れている。  (外部評価) 利用者や家族に現在の計画の実施状況や達成状況を説明し、意見や要望を取り入れている。担当者が評価しケアマネが確認し皆で意見を出し合い作成している。計画の実施状況は申し送りノートに記録し、経過観察しながら良い意見は随時、取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを用意し、食事・水分・排泄・体重・バイタル等身体状況、毎日の暮らしの生活の様子やエピソード、気づきノートを記録し、全職員が確認するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて通院・送迎など必要な支援を行っている。本人が希望される方には、ホームに来ていただき、30分ほど、療養マッサージを利用している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 推進員である区長や民生委員、保育所職員と意見交換をしたり、地域住民と交流（サロン）することにより、入居者と顔なじみになることで、自由で安全、安心な暮らしが出来るような体制を整えている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居者及び家族の希望するかかりつけの医療機関に受 診している。病状に合わせた適切な医療機関にも受診 している。緊急時は往診を受けたり、主治医との連携 を図っている。  (外部評価) 協力医療機関は24時間体制で連携を図っている。利用 者の希望の医療機関への受診は家族にお願いするが、 管理者が対応することもある。職員は利用者一人ひと りの健康状態に常に気を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師に、毎週1回健康観察を行ってま らい、入居者の身体状況を報告し、適切な医療に継げ ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合、情報提供したり、職員のお見舞い時は 病院関係者と話し、状態を把握している。退院時 は、病院より情報提供してもらい、連携を密に図って いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に施設の方針を説明し、同意を得ている。看取 り対応マニュアルを作成し、今年3月に看取りを行った が、家族・意思・全職員で話し合いを行い、連携を図 り看取りを行った。これらの経験を生かし今後を活か していきたいと思う。  (外部評価) ホームでの終末期ケアの取り組みは利用者や家族の大 きな関心となっている。今後も要望があれば事業所と して対応できるよう、協力医療機関等と協力し職員の 医療的な知識や介護力の向上に努めていきたいと検討 している。	利用者が安心して希望する生活を送るためには、職員 全員が同じ思いで終末期ケアに取り組む必要がある。 終末期ケアに関する研修会等を関係機関にも協力して もらう等して、さらなる職員のスキルアップを期待し たい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に全職員が救命救急法を受講している。緊急時対応マニュアルを作成、掲示し、周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災や地震等の災害に備えて、テント、食料、飲料水、トイレ（ポータブル）を常備している。定期的に地域の方との訓練も行っている。平成22年2月にスプリンクラーを設置した。  (外部評価) 年2回の避難訓練を毎年実施している。運営推進会議の中で状況等の報告をして、地域の協力が得られるようお願いしている。職員は設備の点検や避難経路の整備、夜間の外回りの巡視等を行い予防に努めており、防災に関する意識は高い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の気持ちを考えて、さりげない声かけをしている。職員会議、カンファレンスで言葉かけの対応について話し合いを行っている。  (外部評価) 毎年プライバシーの保護については研修を受け、職員の意識の向上に努めている。利用者本位を行動目標にも掲げ、気になる事があればホーム長や管理者が直接注意することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、利用者に合わせて声かけしたり、意思表示ができない方に対しては表情を読み取ったり、自己決定出来やすい働きかけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは決まっているが、起床から就寝までの時間、一人一人のペースを大切に個別に対応している。生活のメリハリを付ける為には散歩、レクなどは無理強いせず声かけすることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望により、美容室に行かれパーマをかけられている。自己決定出来ない方には(外出時等の服装など)職員と一緒に考えて、本人の気持ちに添った支援を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で作った野菜と一緒に収穫し、メニューの中に取り入れ楽しく食事をしている。誕生会には本人の希望を聞き、好きなものを食べてもらったり、月1回の外食も好きなものを食べてもらっている。出来る人には食事の準備・片づけと一緒にしてもらっている。 (外部評価) ホームと併設のデイサービスの職員で協力して調理を行っており、利用者の健康状態に合わせて普通食と減塩食の2種類の調理を分担して行っている。利用者の要望をメニューに反映する等、毎日の食事が楽しくなるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の健康状態に合わせた食事の提供を行っている。(とろみ、刻み食、ミキサー食、減塩食、減糖食)水分量や食事摂取量を個別に記録している。お茶を嫌がる人にはジュース等好きなものを飲んでもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、個別に応じて支援している。(歯間ブラシ、スポンジ)夜は義歯を外してもらっている。週1回ポリデントで消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し(排泄チェック表)、声かけ誘導を行っている。日中はトイレでの排泄を促し、夜間帯は、必要に応じてポータブルトイレ、オムツ、尿器を使用している。	
			(外部評価) 介助が必要な利用者については、排泄状況をチェックし排泄の自立支援に取り組んでいる。ポータブルトイレで排泄できるようになった利用者もあり、効果が表れている。また、トイレ誘導等の声かけについては利用者に無理強いしないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく自然排泄が出来るように、体操、散歩を行ったり、乳製品、水分、食物繊維を多く取ってもらうようにしている。便秘が続く方には主治医に相談し、薬を処方してもらったり、センナ茶を飲んでもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の希望や健康状態に合わせて入浴してもらっている。介助も入浴時間もその人に合わせて個別支援している。	
			(外部評価) 昼間の時間帯で、利用者の希望で入浴している。体調不良等で入浴できない場合は、朝の更衣時に着替えの支援を行い清潔に過ごせるようにしている。介助にて浴槽につかって入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状況を各個人ごとに把握し、散歩、レクに参加してもらったり、日中の活動を促す工夫をしている。日中も利用者の意向や健康状態に合わせて休んでもらうこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋があり、用途や副作用を理解している。いつでも全職員が見れるようにしている。症状変化があった場合、主治医と連携を図って相談している。薬変更後は申し送りノートに記入し、共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に応じた(得意)手伝い、趣味(野菜作り、料理、洗濯干し・たたみ、掃除、縫物、編み物、買い物)を活かし、日々を楽しく過ごしてもらえるよう支援している。カラオケ、歌を唄う、ドライブ、風船パレードは日々の中で楽しまれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望に添って買い物に出かける機会を支援している。家族の協力を得て外出されている方もおられる。	
			(外部評価) 利用者と一緒に食材を買いに出かけたり、それとは別に利用者からの希望があれば、曜日を決めて買い物にも行っている。利用者の希望を聞いて外出計画を立てており、ミキサー食の利用者であっても出かけられるよう支援している。外泊も家族への働きかけを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金の管理が出来る方は、自分で所持され、買い物に行かされている。ほとんどの方は家族と相談し、ホームで管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話が出来る方は電話をしたり、職員が準備したハガキ(暑中見舞い、年賀状)は、一言書かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先に花を植えたり、共有部分には花を生けたり、食堂内の壁面には季節に応じた飾りを作っている。廊下には写真、作品を掲示している。出来る方は自室に花を飾ったり、観葉植物のお世話をされている。場所が分かるように(トイレ、エレベーター、居室)の表示をしている。	
			(外部評価) 廃校になった中学校の職員宿舎をリフォームした事業所である。リビングは適度な広さが確保され、隣接する保育園から園児の元気の良い声が聞こえてくる。トイレも介助に必要な広さがとられており、気になる臭いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下に椅子、ベンチ、ソファを置き、気の合った利用者が話しできるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には馴染みの家具、TV、コタツ、タンスを持ち込まれている方もおられる。居心地良く過ごしてもらえるように、本人、家族の写真や作品を飾って工夫している。	
			(外部評価) 各部屋にベランダがあり居室も広く、利用者の希望があれば自宅からの私物も十分置くことができる。開設からの利用者も多く、居室が安心して過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車いす、歩行器を使用してもらっている。身体状況に合わせて、ベッドやポータブルトイレの位置を検討している。転落防止のため、床で寝てもらう方もある。階段、廊下、トイレ、浴室に手すりを設置したり、段差を無くし安全で出来るだけ自立に向けた生活が送れるよう努めている。	